

紫 筍

第 28 号



都立文京高等学校同窓会会誌

昭和60年11月1日刊

目次

表紙カット(鮫島みき).....	表 1
目次、奨学金申込者.....	表 2
きらめきの漫画家.....鮫島みき.....	1 3
同窓会幹事会(60・6・28)写真.....	3
文京高校に着任して.....	
紺野嘉夫学校長.....	4
眠くなる雰囲気.....木村欽一.....	5
現代の青少年について.....	
木村 駿.....	6 7
スパルタ教育.....牧野信也.....	8
或る阿呆の戯言.....中山隆治.....	8 9
将来へのステップ・ジャンプ.....	
千葉達也.....	9
コモン・センスの人(回想の井出益男先生)	
金子ひろむ.....	10 11
容姿をとるか、性格をとるか.....	
亀井裕美子.....	11
卒業式・入学式・紫雲祭写真.....	12 13
進路状況(国公立・私大四年・短大).....	14
(各種専修学校・就職状況).....	15
同窓会賛助者・市三会.....	表 3
会計(決算・予算)・後記.....	表 4

奨学金申込者

(一口・五千円)

六口	渡辺 彰彰(一A)	内野 陽子(12F)
四口	椎橋 章二(6A)	三田 康久(4A)
三口	早瀬 久雄(6D)	岩田 賢一(29C)
二口	湖山 聖道(二A)	殿塚 猷一(7D)
	中沢 篤郎(三D)	小久保勝弘(6B)
	国田 佳資(4F)	石川 重久(一A)
	野村繪一郎(一B)	名嘉地六郎(9D)
	内藤 康雄(4F)	重枝 力(9C)
	木島 孝(8F)	羽田 勝明(33C)
	宮田 淳(8B)	阿部 喜一(二A)
	石塚 忠行(二E)	川俣 和弘(28A)
	舟橋 政男(三E)	中川 盛雄(11A)
	飯塚 昌平(1A)	堀田慶三郎(22C)
	高橋 昌平(19D)	樋口 春美(8B)
	小杉 茂夫(10A)	島田 勝夫(11C)
	白鳥 良仁(12F)	沼野 藤世(9B)
一口	木村 駿(三C)	森 孝子(31E)
	右高 研至(5F)	仲田 達男(三D)
	橋本 喜典(二E)	高宮 三郎(13F)
	白井 健(22D)	磯部甲太郎(4D)
	羽場 弘明(27C)	山家 宋美(27G)
	橋本 治子(12A)	宗島 剛松(一D)
		大場みよ子(22A)
		池内 崇子(20A)
		佐々木 望(11D)
		江戸川達助(三C)
		征矢 昌久(26C)
		根本 司(10D)
		池谷 惇(二A)

浅野 俊雄(20G)	田口 明(22I)	竹本 悠(16G)	小島 義郎(二B)	堀 和彦(7F)	永山 和彦(23B)	板橋 綯子(6E)	石井 禎郎(9F)	山元 幸子(20D)	亀山 秀雄(20H)	練木 允雄(6A)	吉岡 昭彦(一C)	志村 和夫(19I)	中村 寿子(23E)	
高橋 一洋(二E)	市三会 10,000円	7期A組 8,000円	4期会 36,000円	篠原正興(10D) 3,000円	母校関係 4,000円	編集残金(六七五〇円)	61年3月卒業生から、 文京生として奨学にふさわしい者数名に対し、図書券を贈る予定です。 (基金約二百万円の利息相当額を中心として行います。)							

きらめきのマンガ家

鮫島 美貴

プロフィール

在学中は美術部に在籍。昭和53年3月(30期)卒業。文京高校卒業後は東京デザイン学院へ進む傍ら、アシスタントとしてマンガ家の活動を始める。同学院卒業と同時に「日泉社アテナ大賞三席」を受賞、少女マンガ家としてデビュー。代表作に「きらめきスクランブル」(実業之日本社)などがある。

好評の「直撃インタビュー」、今回は少女漫画家として御活躍中の鮫島美貴さんにお話を伺いました。未知の職業だけに、我々の期待と不安は高まるばかり。読者諸氏も同じお気持ちではないでしょうか。ところがどうして、そんな我々の期待？を見事に裏切って、現れたのはとても素敵なお方だったので。

Q、漫画家という職業を選んだ時、不安はありませんでしたか。

A、選んだ時点で全然ありませんでした。



意気揚々として。だけどデビューする前はちよつと、このままだらうなるかな、という不安がありました。

Q、この職業を選んで良かった事、困った事などは？

A、好きな事をやって食べていけて良かったな、と思っているんです。あと、大変なのは人気商売っていうことでしょうね。

Q、漫画家という職業は会社勤めに比べて上下関係や、いろいろな規則にあまりとらわれないように思いますけれども、実際はどうでしょう。

A、そういう面ではそうね。ただ出した作品が全部自分に跳ね返ってくるから、自分で責任持たなくてはならないという点では会社組織にいるより大変かもしれません。

Q、自分以外の人が書いた漫画を読む事はありますか。

A、それはもう、職業だからあります。でも前のように読者としては見られなくなりま

Q、ストーリーは御自分の経験から？

A、えつと、作る段階で人それぞれ違うんだね。例えば、雨が降ってて雨の音を聞いている情景がいいなと思ったら、それをマンガにできないかなと思ったり、それとか私、真田広之が好きだった時があつて、ああいう人を主人公にするとうなるかと思ったり。そういう所から始まって、で、それはさーつと書いてちやう。それをためておいてそれから起こすんですよ。

(一 同うなずく)

想像する世界だから……。 (にっこりと)

Q、お仕事をなさる時、夜と昼どちらの方がはかどりますか。

A、昼、昼間。

Q、他の漫画家の方は、よく夜中じゃないと書けない、という方もいらつしやいますか。

A、夜中はやっぱり寝てる時間。(笑い)

Q、作品の中に文京高校の校舎が出てきますけど、ああいうのはやっぱり意識的に？

A、あれは、高校時代って忘れちゃうんですよね。だんだん歳とともに。忘れちゃうから、忘れないうちに書いておこうと思って、文京を。

Q、外国へ旅行された事があると聞きましたすが、その時のお話など聞かせていただけませんか。

A、えーと、最初は中国の南の方へ行っただけですよね。最初香港におりた時はすごく怖かったですよ。バッグはたすき掛けにしてろとかいわれて、で、あー、こんなのやだよだなんて思って。自由主義の国はもういい、早く社会主義の国へ入りたい、そんな風に思っただけです。だから中国に足を踏み入れた時はほんとしましたよ。スリなんか全然ないし、みんなすごくのんびりしてるから。だけど八日間まわって帰る頃にはもううんざりしちゃってて。(笑い)早く自由圏に戻りたい、所詮私は自由圏の人間なんだなあ、なんて思ってた。あとは、やっぱりベルリンの壁。本当に人間が造ったものなんだなと思ってね。で、川を渡るうとして銃殺された人のお墓が西側にあって、その中に一九八一年っていうのがあつ

たんです。だからほら、たとえば長崎なんという、遠い過去、そうなつてはいけないうんだったという感じで意識しているものだけど、実際にはまだまだ戦争の傷跡は残ってるんだなつて思うと、なんか、こう、すごくショックでした。



・鮫島さんの作品を拝見しますと、とても「青春してる!」若者達が作品からとび出さんばかりに跳ねまわり、さまざまなストーリーを繰り広げます。では御本人の高校時代はどんなものだったのでしょうか。一同興味津々。なんでも、あの徒

歩旅行(まさしく練り歩くのですが、夜通しということもあって一時は文京高校の名物行事としてその名をはせました。)に参加されたとかされないとか。その辺の事も絡めて高校時代の思い出を語ってもらいましょう。

A、高校に入っつてすぐ、四月の終りだったと思いますけど、風呂研の徒歩旅行に参加したんです。

Q、さて風呂研の徒歩旅行はいかがですか。

A、一年生の時ですね。

Q、ええ。何名ぐらいでした? 総勢。

A、けっこういたわよ。四十人くらいかな。写真まだあるんですよ。そう、その写真、出発前と着いてからと撮ったのね。最初出発する時はね、みんな、こんななつて(とカツポーズ)はりきって。

でも着いた時なんかひどいの。私なんか四人グループだったんだけど、友達は一人大っかいっちゃやし(笑い)、私はね、かろうじて写真に入る所でポツとしてるの。(笑いい)

Q、どこからどこまで歩かれたんですか。

A、えっと、最初駒込の方を通過って、東京中



Q、学校からスタートしたんですか？

A、あの大塚の神社あるでしょ、都電の方の

Q、あ、南口の。大塚駅をはさんで文京の反

対側？

A、そうそう。そこに集合して。

Q、何時から歩き始めたんですか？

A、まだチラシ持つてるから持ってくればよ
かったな。(笑)六時ぐらいかな。夜の
でやっぱ朝の六時頃まで。

Q、うわー、十二時間ノブーって先生も？

A、先生は……最初だけじゃなかったかな。

Q、何か思い出話を聞かせていただけますか。

A、そうね、あ、途中で休憩が二回あったの
ね。王子のね、飛鳥山だったかな。あそこ

で休んだ時ね、友達がころげ落ちちゃって。
(爆笑)今でも言ってるの。」

Q、坂をですか？

A、そう。なんかね、ごろんと音がして……

Q、疲れちゃって？

A、ええ、うとうととしてたらしいのね。危な
かったけど、怪我はしなかったみたい。そ

うね、それからあと皇居の北ノ丸公園。あ

そこが怖くてね。ーちようど夜中の二時
ぐらいだったの。私なんか後ろのほうだつ

たからどんどんおいてかれちゃって。道が

カーブしてるから前の方なんか見えないの
ね。「おーい、おーい」なんて言いながら
歩いたの。

Q、これからもずつと漫画を書かれていくと
思いますか、他にやってみたいお仕事はあ

りますか。例えばアニメーションの分野に
も手をのばしてみたいとか。

A、あのね、旅行記を出してみたいんです。

Q、海外に行かれた時の事とか。

A、そうですね。あとやっぱ日本のことも
旅行が好きなのね、私。売っているガイド
ブックとか見てもあまりおもしろくない。

(笑い)私書いた方がおもしろいだろう
な、と思つて(笑い)

同窓会幹事会 60. 6. 28



・まだまだ夢は広がる鮫島さん。ここにも一人、素敵な文京生が、一生懸命生きているのです。まだまだ楽しいお話を沢山お伺いしたのですが、紙面の都合でその大部分を割愛せざるをえなかったことを、大変残念に思っております。尚、この企画に御尽力下さった方々、そして鮫島さん、本当に有難うございました。
(佐藤高史)

文京高校に

着任して

学校長 紺野 嘉夫



三月下旬に文京高校への転任を内示されたとき、最初に脳裏に浮かんだのは「A氏の母校だな」ということだった。A氏というのは、私より一つ歳上の従兄で、市立三中の卒業生である。郡山市にある県立中学校に私が在学していたころ、東京の市立三中に彼が通っているのを聞いていた。東北地方の小都市に住んでいた私は、そのころから「第三東京市立中学校」の名を知っていた。A氏はなかなかの秀才で、三中から陸軍予科士官学校、

旧制二高を経て東京工大に進み、N電氣に就職して今年の三月まで、その会社が新しく建設する我孫子工場の建設本部長をしていた。

三月末日の新聞に私の異動が発表されて数日後、親しくしているある都立高校の教頭さん

に逢った。そのとき彼は、「文京高校という」と、私は正門にある大銀杏が目につかぶんですよ。私が大学生のころ、雑司ヶ谷の寮

(東大)から通っていたので、毎日のようにあの銀杏を眺めたものです」と語った。四月一日に着任して、私が初めて目にとめたのも、正門の左右に立つ椎の木と大銀杏であった。この両木がすべての同窓生にとって、母校のシンボルである所以を実感として知った。

着任して間もない四月十四日の日曜日は、昼から市三会(市立三中の会)の昼食会が開かれ、五月下旬のPTA総会での講演に、三期生で、現在群馬大学教授をしておられる木村駿氏を、講師に推挙することが決った。同窓会名簿で調べたら、講師にはこと欠かないほど、本校の同窓生には多くの大学教授が名を連ねていることも知った。

そのころ、西岡先生から校歌制定のときのテープを借りて、校歌のメロディーと合唱を聞き、作詞者の土岐善磨先生と作曲者の平井康三郎先生の記念講演も拝聴した。卒直に言

って本校の校歌は、私知っている多くの高校の校歌の中でも、特に優れたものの一つであると感じた。それが本校では、あまり歌われていないのを不思議にも思った。校長として、これからは生徒たちに、いろいろな機会に歌わせたいと希っている。

八月に仙台に居る伯父に逢う機会があった。この伯父は、仙台一高の教頭で退職した人で、いま八十六歳になるが、「あなたの学校には、私も行ったことがあるんだよ」と、その当時のことを語ってくれた。昭和二十八年に二号館が、当時のモデル校舎として完成したころ、本校を見学し、仙台から出張したのだそうである。

私的なことにも及んでしまったが、文京高校は私にとって、きわめてゆかりの深い学校である。何よりも、多士済々の卒業生が輩出し、すばらしい同窓会をもつ、立派な学校であると思っっている。

略歴

昭和22年 福島県安積中学校卒

昭和27年 東京高等師範学校理2卒

卒後・県立福島高校・都立深川高校・都立大崎高校・都立小松川高校

都立江北高校教頭・都立足立高

校長・都立文京高校長。

眠くなる雰囲気

二年A組
昭和20卒 木村 欽 一

勉強を始めると眠くなることがある。これは困る。眠くなっても好しとするものがある。お能の世界でのことだ。

入場料を払い、遠路能楽堂まで足を運び、観たい演目を観ながら気持よく夢心地となる。演者にとつても、これが失礼にならない。なぜであろうか。

眠くなるのは、好い能が演じられているときであり、あの大、小鼓・笛の堂内を圧する囃子のなかでの眠りも、舞台上の全てがシテ



(主役)に張り合い、能楽独特のリズムである序破急によって律せられているから、見所(観客)もその序破急に乘せられていることである。

「人は、鍛え抜かれた芸に酔う」

その酔いが眠りを誘う。といえは納得されるかと思う。このことを裏付けるエピソードがある。外人が初めての演能中に、あの眠りに誘われ、ある瞬間夢から醒めた。これはシテの絶句によつて後見がつけたときであった。この後見の教える声は、能を壊す異質な声だったのである。

この不思議な能楽の世界は、六百年を生き現代に盛んである。外国人は、日本人なら能を熟知しているものと尋ねてくる。あなたはどうか対処されますか。

九月二日発行「お能の周辺考」—国際派への提言—は、お能の周辺から、能の真髄をも突こうとしている。拙著のご一読を乞う。

「お能の周辺考」

—国際派への提言—

四六判・三三六頁。定価二三〇〇円。

こびあん書房刊。木村欽一著

電話〇三一九四一—四六八三

職員異動

転・退職された先生方

古瀬 敦	校長	3年在	定年退職
大橋 敬一	英語	21年在	退任
勝保 史子	国語	6年在	都立目黒高へ
高野 則義	"	7年在	" 日比谷高へ
錦織 政晴	"	4年在	" 大島高へ
樺沢 俊和	数学	8年在	" 西高へ
亀井 寿子	保体	19年在	" 台東商高へ
朝日 良次	英語	14年在	" 町田高へ
三浦 義幸	"	20年在	" 北園高へ
天道佐津子	司書	21年	" 北園高へ
木之下 博	事務	25年	定年退職
着任された先生方			
紺野 嘉夫	校長	都立足立高校より	
村岡 恒武	国語	" 富士高より	
福本 良一	"	" 桜町高より	
高橋直子	"	" 江北高(定)より	
石田 豊	数学	" 城南高より	
渡部 曜	理科	" 八王子工より	
日達 晴江	保体	" 三鷹高より	
川崎 修	英語	" 板橋高より	
山下 達雄	"	" 北高より	
藤原 真名	"	"	
小暮真由美	司書	都立赤城台高より	
佐藤 重雄	事務	" 石神井養護学校より	
新規採用			

現代の青少年に

ついて

三期C組卒 木村 駿

プロフィール

早大心理学卒。現群馬大学教育学部教授。臨床心理学の権威でピーター・パン・シンドローム、シンデレラ・コンプレックスなどの言葉の生みの親。奥様は千葉工大教授でエッセイストの木村治美さん。

母校PTA総会での講演から編集。



一族は理工系。自分は心理学。

私は卒業したころは決して優等生ではなくて、今から考えればいわゆる落ちこぼれだったのではないかと、思います。というのは、私は自分の考えた能力と適性というものが、うまくつかめていなかったせいでしょう。

当時、私の一族は理工系が多かったので、当然私も理工系志望だったんです。ところが私はあまり理工系向きではなかったようで、だんだん学校の勉強が嫌になり、小説や哲学といったものが非常に好きになりました。

受験勉強なんてくだらんといい、やらなかつたのですが、卒業して理工系の受験に失敗し、一年間浪人する破目になってしまいました。その時、自分はどうも理工系には向かないんじゃないか、と思い始めたのです。

そのころからだんだん心理学に興味を持つようになり、自分はこういう方面をやった方がいいんじゃないか、ということに気が付いたのです。父親は私を理工学部へ入れたがりましたが、私は心理学をやりたいと言いましたので非常に気まずい顔をしました。

しかし、一年間浪人していますし、これ以上やっても理工系には受からないだろうというので、親との妥協が成立しました。

子供は子供、社会とのギャップ

考えてみると、親と子供が同じ能力、適性があるとは限らないのですから、親の言うことを押しつけるというのは間違いだということなのです。ですから私は子供には注文をつけないことにしています。とにかく好きなものをやれ、好きなものをやるなら納得がいくだろう。それと自分の能力を客観的に評価して自分の合ったところへ行け、ということです。

ところが青少年というのは、うまく自分をとらえられないでいるし、親というものは、自分の価値観を子供に押しつけようとしています。その価値観によって今の社会は動いているわけですが、そこに非常に大きなギャップがあると私は思います。

その所が不協和音をおこすと、落ちこぼれやノイローゼがおきるわけです。そういった青少年を見ると、昔の私を見ているようで、そういう点で私は彼らの心理を理解しやすい立場なのです。

現在は私達の時とは違って、その人の個性を生かせる社会になっています。自分の個性と適性と興味とを発見することが大事なわけですが、私のところへ来る青少年たちは、それをうまくつかみそこなっているのです。

青年期の長期化

それともう一つ、このことは先進国においてはだいたい共通しているのですが、高度成長経済の発展により青年期が長期化するという現象が起こるといふことです。アメリカやイギリスにも現在、様々な社会問題、青少年問題がありますが、その原因はやはり高度成長によって知識技術社会になり、若い人達が知識や技能を身につけるのに非常に長い時間がかかるということですから。つまり人間の人生のリズムが大きく変わったということですよ。

自由と選択の困難

私の時代から比べると、今の青年諸君は選択の幅が広くなって幸せだと思いますが、これはかえって難しい状況なのです。たくさんありすぎるために、何を選んでいいかわからなくなってしまうからです。自分自身が何かということがわかっていなければ、できないことなのです。

非行・ノイローゼ

ところが自分で自分の課題を設定してやるというのではなく、すべて親から与えられているので、自分というのとはわからない、そこで非行やノイローゼが起こるわけです。今は選択のチャンスが多くなったのと同時に、落ちこぼれるチャンスも多くなったといえるでしょう。経済的に満たされた社会、それだけ

では解決できない問題が自分の心の中の問題なのです。

子供が落ちこぼれたり非行化したりするのは、子供だけに問題があるのではなく父親、母親の問題が集約されて子供にくるのです。父親、母親、あるいは教師自身が心を修正していかない限り解決しないんです。

解決の道は

それでは一体、どういう風な解決の道があるかということなのですが、それぞれの価値観や個性の違いというものを、お互い充分見極めるということが非常に重要なのではないかと、私は思うわけです。

おそらくこれからは、人間の個性をどういう風に発見し、いかに个性的に生きるか、そしてお互いの個性の違いを認め合った上で、社会の中で協調していく、といったことが教育の目標となると思うのです。それぞれが自分の能力と個性と価値を発見して生きていく、そのための条件を回りで整えてやるのが、母親の仕事として非常に重要なのではないのでしょうか。

ある程度自分でそういうことを試行錯誤する、そういうことをあなたかく見守ってやるということが必要だと思うのです。私も一時的に成績が落ちたとか、受験に失敗したとか

ありますが、長い人生で見ると後ではプラスになっていきます。一度失敗したらもうだめだ、という考えは間違いだと思うわけです。

つまり、社会はどのように変化するかわからないのですから、その時の社会の価値観だけで人間を評価してはいけないということです。現在は選択の幅が広いだけに、それがつかみにくい、そういう難しい社会であることを理解していただきたい。そこで外に目を奪われるのではなく、自分の心をつめて、自分自身を分析し、自分自身を創っていく、こういうことが必要なのではないかと思うのです。

大人のつとめ

そして青少年問題というのは青少年だけではなく、同時にそれを囲む父親の問題であり、母親の問題であり、教師自身の問題でもあるわけですから、それを自覚し、自分の能力と個性と適性をふまえた上で人間関係を新しくつくり直すということが、これからの青少年問題の解決になるんじゃないかと考えるわけです。青少年が何を望んでいるか、自分に合っていることを親ではなく自分で発見しているか、それを見極め、引出してやるのが大人のつとめではないでしょうか。

スパルタ教育

一期A組・昭和24年卒

牧野 信也

スパルタ教育という言葉は今でも時折耳にしますが、文京高校の前身、市立三中は、知る人ぞ知る、当時の東京中で超スパルタ校でした。その中心をなしていたのが、角原虎市というお名前からしてすでに恐ろしいイメージの体操の先生でした。その頃は軍事教練を行なう配属将校が一般にはこわい存在でしたが、角原先生は全くその比ではありませんでした。登校時の歩調のとり方が悪い、と言つては校門の脇に座らされ、朝礼の裸体操に気が入っていない、ということ、運動場を何十周も駆けさせられる、といったことが毎日でした。とりわけ、体操の**にが手**の私など、いつも、「**牧野、たるんどるぞ**」と怒鳴られっぱなしでした。

このようにこわい先生でしたが、卒業後十二年目の昭和三十六年春、奇しくも私は先生と二度目にめぐり会い、その暖いお心に触れることができました。それは、私がその年、東外大に奉職するようになって登校した最初

の日、すでに同大学の体育教官であられた先生が、かつての「たるんどるぞ」ではなく、「**牧野、本当によかったな**」と優しくお声をかけて下さったことです。

スパルタ教育はいつの時代にも有効であるとは思いますが、私にとってあれはまたとない貴重な体験でした。そして私は、乾布マサツや駆け足——敢えて、ジョギングとは言いません——、そして小魚を頭まで食べる、と、いうようなことを、今も現に実行しています。

著作 「アラブ的思考様式」「マホメット」
(講談社)等々ベストセラーとなつて
おり、小林 守医学博士から御推薦が
ありました。

あるあほのたわごと 或る阿呆の戯言

35期E組・昭和58年卒

中山 隆 治

昨年の十一月二十六日、私は白馬岳(北アルプス)の頂に立っていた。遠く鹿島槍や五龍岳等の後立山連峰、剣岳や立山連峰、そして北アルプス中心部の山々が見える。ふりか

えれば頸城の山々、戸隠連山、毛勝山、猫又山そして富山平野と能登半島、海。

ここまで来るまでに、三十kgの荷の重さにあえいだ。雪は少ない様だが凍りついてよくすべる。ピッケルやアイゼンにたよりながら登る。稜線の東側に滑落したら命もあぶない恐怖と苦痛と戦いながら、氷と雪と岩と、そして青い空しかない白い世界を歩く。雪がきらきら光る。風が身体を吹き抜け、身体は凍りつく。全ての物が凍りついてしまうような寒さの中で、「なぜこんな馬鹿な事をしていいのか。」と自問自答することもある。それでも下界に降りれば、また山が恋しくなる。もう変態だね。

昨年の四月、信州松本に移り住んだ。この岳都に居を得たからには一年間、山にガンガンのぼるゾと思った。信州大学スキー山岳部に入部した私は、すでに四十日を山ですごした。

山に登るには金もいる。少ない仕送りから食費を削り、またトレーニングも兼ねた重労働バイトに汗を流した。今は毎夜徹夜でスケート場の整備をして、昼は授業に出るという下宿の必要のない狂った生活をしている。バイト二つにサークル二つ、ゼミが一つに自治会の執行委員。周りから見たら、よほどの馬

鹿に見えるだろうな。

大部分の人は、三十kgもの重荷を背負い、山を六、七時間も歩くなどという行為は、全く意味のない無駄な事のように思うだろう。自分でも馬鹿げてると思うこともある。何故そんなことをするのかという理由は、いくつも浮ぶ点もあるが、うまきは説明できない。そして言え「山が好きだから」という風になるのだろうか。そうだ。好きな山に登るためだから、重荷にも耐えられるのだ。このことは、受験や、その他一般の事にも応用できる。

この駄文を読んでくれている人の大半は、受験その他で、何らかの苦しみを持っていると思う。苦しみからは逃げてしまえば良いのだが、あえて苦しみを得んとしている人々もいるだろう。それは、苦しみの向うの何かを



求めているためだろう。どんなに苦しい行為

であっても、その行為が好きであれば、また、その行為をへて、好む物が得られるならば、人は、どんなに苦しくても、それを乗り切ることができると。今、現在、受験その他で苦しんでいる人々に言う。その行為を好きになつてしまえと。それができなければ、苦しい行為の目的を好きになれと。好きな物のために努力せよと。逆に言えば、好む目的の無い行為の苦しきは、それの有る行為の苦しみの何倍もの大きさをもちて君を襲うだろう。目的を持ちたまえ。苦しみを乗り越えるための第一歩はこれだ。

言いたい放題言っただけで、最後にもう一つ。文京は自由だったが、大学はさらに自由だ。ゆえに、大学に入る人は、「怠惰」を怖れてほしい。現在の自分に怒りを持って、前へ前へと進んで行くつもりでいてほしいと思う。常に上を見ていてほしい。下宿でゴロゴロと寝ていて一日が終る様な生活は送らないように。諸君の成功を祈る。

(国立信州大学繊維学科二年)

将来へステップ・ジャンプ

36期A組卒

千葉達也



現在の高校生に自分自身の目標についてアンケートをとってみたらどう結果がでてくるだろうか。おそらく半数以上の人がわからないに近い答えになるんじゃないだろうか。その有名な例として最近の高校生は、単に大学へ進学すれば良い会社へ就職出来るんじゃないかと思ひ受験する人が増えてきている。勿論受験するのに理由はいらないけれど、目標を持っている人と競争したらどうだろうか。

おそらく後者が勝るであろう。大学は専門知識を得るための場所であって、4年間またはそれ以上遊ぶための場所ではないのである。生半可な気持ちで受験する者は、まず必ずと言って良いほど名の知れる大学には合格することが出来ないだろう。又、今から目標を持つことは、いくつもの壁にぶつかり乗り越える事から、人間的に成長することも出来るの

である。以上のことから、我々文京生OBとして、世の中に出てははずかしくない立派な人間になるため、各自一人一人が将来へステップとなりジャンプすることのできる目標というものをしっかりと胸に秘めようではないか。

コモン・センスの人

昭和17〜53年 英語科教諭

金子 ひろむ



第2回教職員の集いから

NHKの新春番組「室生寺」を見ていたら、修学旅行で井出さんたち国語科に連れられて行ったことを思い出して嬉しかった。生徒は5・6人の小グループごとに、研究したテーマに沿って、行きたい所を見学する、それで「手のあいた」教師たちが室生寺まで足をのばしたのだが、とにかく「文京リベラリズム」最も華やかな時代の事であった。

井出さんは、同じ学年を担当する事が多

くて、お互に隣になり日向になりあって良い気分で文京の生活を送らせてもらった。随分昔の事で、細部の記憶はすっかりぼけてしまったが、別な修学旅行で——確か井出さんが旅行係の元締めだったと思うが——クラスが解体して紀州コースと、確か四国コースだったか、或いはもう一つ山陽か山陰のコースがあったかは定かではないが、兎に角私が紀州コースの引率ということになっていた。ところが出発直前になって、私の名古屋の親戚に不幸があって、私だけ先発して、名古屋で全体と合流することにして貰った。合流後、車内で、生徒は全員異状なく来ていることを知らされ、私は紀州コースを引きつれて（といっても旅行係の生徒が万事やってくれるのだが）、どこかの駅で本隊と別れて紀州路に入った。夜は高野山。夕食の時旅行係が来て、「一人分足りません」と言う。取り敢えず庫裏に頼んで一人分増やして貰い、班毎に人員点検を確実にするように言ったが、就寝前の点呼は異状なし。翌朝の点呼も異状なし。ところが、食事は一人不足。頭にきて、食べている席を立たせずに班毎に点呼させて（と言うより旅行係がみんなやって呉れたのだが）やっとなんか判ったのだが、四国コースの生徒が一人紛れこんでいたのだ。今考えて不思議なの

は、このN君の膏を搾った記憶が全然ないことである。もう一つは、私の方から本隊に連絡しようという気も無かったし、本隊から人数の確認も全然なかったことである。こちらで一人余ると言うことは、本隊の方で一人不足ということだから、普通なら大騒ぎをする所であるのに。伊勢神宮を見学して名古屋で本隊と合流したのであるが、Nがあんたの方に行っていたでしょう……”後は笑いだけ。こんなことは、学校生活の習慣からすれば、全くありえないことだ。

大体井出さんという人は、習慣などにこだわらないことを、平気で言う人だった。これもある修学旅行の出発前の父母会の時の事、学年の教師側からいろいろ説明して、散会の直前、お母さんから手が挙って、「お金はいくら位持たせたら……」「いくらとは言いませんが、帰りの汽車賃の分だけは、封筒に密封して持たせてください。時間に遅れたら置いてきますから……」これはお母さん達にはショックだったようだ。

その頃私の組のお母さんたちが出していたクラスの母親新聞に載ったこの会の報告には、他の事はなんにも取りあげられずこの事だけが詳しく書かれていた。

井出さんという人は、まったく、大事な事をズバリズバリと気楽に言う人だった。

それは何も高遠な真理であるわけではなくて、悪く言えば常識的な事だが、生活の習慣の中で私たちがつい見失っている物事の本質を、スカッと指摘してくれるのである。それも、考えて言うのではなく、ひとりに出てくるといふ感じなの不思議である。感覚的な何かがあったような気がする。その点で言えば、「常識」の「識」ではなくて。原語である common sense の sence (感覚) が、並はずれていたとしか言いようがない。サービスピ精神が旺盛なわけでもないのに、春風たい蕩、まことに付合いやすい。第一この文にしても、何を書いてでも許してくれそうで、娛しみなから書けるのが良い。

「金子さんまた例によって、勝手なオグ上げて」などと、どこか高い所から言っているような気がしてならない。

待っててください。いずれそのうち僕もでかけるから……。

(「回想の井出益男先生」から)

容姿をとるか

性格をとるか

34期B組・昭57年卒

トリマー 亀 井 裕美子

マルチーズ、ブードル、ヨークシャー・テリアなど、小型犬の中では人気が高く、今では飼っている家庭も多いようです。

トリマー(いわゆる犬のトコヤさん)の学校へ行くまで、私はがぜん猫派でした。トリミングで犬に接する機会が多くなり、犬の表情はもう一般化している動作で、「おすわり」「お手」、「おかわり」なのです。今まで猫がじゃれ遊ぶことをかわいいと思っていた



のですが、犬は「お手」という言葉を理解して前足を私の手の上にのせたのです。いろいろな犬を見てきてわかったのですが、本当にかわいいと思うのは性格のよい子です。他人(飼い主以外)に触れられるのがいやだという気が強い犬を、咬まれながらも必死で仕上げた時など、見かけはきれいになってもかわいい気はありません。

性格が悪い犬は飼い主に責任があると思います。人間と同じように小さい時のしつけが大事です。犬の場合は感情を言葉で表現できないし、力も人間程はないのです。悪いことをしても決してぶったりしてはいけません。罰を与えるには声の調子だけで十分なのです。それから言うことをきいた時は大げさなくらいはめてあげて下さい。これは犬のしつけの基本です。

成犬でも性格が良くなった子がいました。時間をかけて愛情をもって接していくうちに今まで抱くこともできなかった子がおとなしく抱かせるようになったのです。

犬のしつけをすることは、飼い主の忍耐力と理解力を培うことでもあるのです。

卒業式にて祝辞
同窓会長 渡辺剛彰
60・3・11



入学式にて式辞
学校長 紺野嘉夫
60・4・9



文化祭
鉄道研究会
展示も努力しました。





運動会
級団演技
60・9・26



女子
千メートル競争

新聞広告社による、母校記事
掲載依頼は、
同窓会、母校としては、関係
なく、依頼もしていません。



スイートレース
ゴールインも大変

卒業生進路状況 — 2 —

(5) 各種・専修学校 (60年4月調)

学 校 名	現役	浪人	学 校 名	現役	浪人
竹 早 教 員 養 成 所	2	2	彰 栄 保 育 専 門	1(1)	1
神 田 外 語 学 院	2		都 立 豊 島 看 護 専 門 学 校	1	
通 訳 ガ イ ド 養 成 所	1		日 本 電 子 専 門 学 校	2	
大 原 簿 記 学 校	1		香 川 栄 養 専 門 学 校	2	
津 田 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	2		文 化 服 装 学 院	1	
東 京 会 計 専 門 学 校	2		武 蔵 野 調 理 専 門	1	
東 京 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	6		東 京 商 科 学 院 専 門	1	
中 野 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	3		道 灌 山 学 園 保 育 専 門	2	
一 ツ 橋 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	1		パ ン パ シ フ ィ ッ ク タ イ ン ス	1	
早 稲 田 速 記 学 校	2		日 本 美 容 専 門	1	
国 立 病 院 医 療 セ ン タ ー 附 属 看 護 学 校	1		日 本 工 学 院 専 門 学 校	2	
東 京 観 光 専 門 学 校	2		日 本 動 物 植 物 専 門	1	
日 本 ビ ジ ネ ス 専 門	1		日 米 会 話 学 院	1	
都 立 板 橋 高 等 看 護	1		国 立 王 子 病 院 看 護 専 門	2	
千 代 田 工 科 芸 術 専 門 学 校	1		Y M C A 英 語 専 門	2	
東 京 写 真 専 門 学 校	2		大 東 医 学 技 術 専 門	1	
東 京 デ ザ イ ナ ー 学 院	2		東 京 映 像 芸 術 学 院	1	
東 京 Y M C A ホ テ ル 専 門	3		佐 伯 栄 養 学 校	1	
都 立 練 馬 高 等 保 育 学 院	3		日 本 動 物 看 護 学 院	1	
東 京 医 薬 専 門	2		東 京 ビ ジ ネ ス カ レ ッ ジ	1	
文 教 大 学 経 営 情 報 専 門	2	ミ ュ ー ジ ッ ク ス ク ー ル ウ ー ド	1		
中 央 工 学 学 校	1(1)	東 京 理 容 学 校	1		
日 本 ジャ ー ナ リ ス ト 専 門	1	関 東 通 信 病 院 看 護 学 校	1		
服 部 栄 養 専 門	2	お 茶 の 水 医 療 秘 書	1(1)		
駿 台 ト ラ べ ル 専 門	1	東 京 秘 密 医 療 秘 書	1(1)		
日 本 歯 科 大 歯 科 技 工 専 門	2	東 京 文 化 医 療 技 術 専 門	1		
淑 徳 保 育 文 化 専 門	1(1)	国 際 音 楽 学 校		1	
東 京 高 等 美 容 学 校	1				
日 本 デ ザ イ ナ ー 学 院	1(1)				
合 計			84(7)	4	

(6) 就職予定者 (60年10月26日現在)

氏 名	企 業 名	氏 名	企 業 名
A 金沢 勝	日 本 電 信 電 話	F 栗山 恵子	三 越
E 石河 晋策	東 京 ト ヨ タ 自 動 車	F 吉川美由紀	松 坂 屋
E 谷原登志夫	東 京 日 産 自 動 車	F 橋本 明美	東 京 ト ヨ タ 自 動 車
B 石井 由美	東 京 相 互 銀 行	G 千田 紀子	凸 版 印 刷
B 関上由紀子	全 国 市 有 物 件 災 害 共 済 会	G 中川 麻子	綜 合 警 備 保 障
B 和田 貴子	中 央 信 託 銀 行	H 伊藤ゆき子	埼 玉 銀 行
C 山本 美枝	太 陽 生	H 大野 薫	伊 勢 丹
D 小矢 晃子	丸 井 命 井	H 鶴見美祐紀	住 友 銀 行
D 小池 陽子	勸 業 角 丸 証 券	H 森谷 真弓	近 畿 日 本 ツ ー リ ス ト
D 宮本 幸子	大 和 証 券	I 小田 弘子	海 外 新 聞 普 及
D 宮森 愛子	泉 セ ン タ ー サ ー ビ ス	I 野口 直枝	日 新 製 鋼
D 山田 祐子	廣 屋	I 村松 洋江	大 藏 省 印 刷 局

池谷製作所

(メガネ・レンズ製作)

一期D 池谷 利一

〒160 新宿区大久保2-13-16

Tel(会)209-8631 (自)209-8118

同窓有志の集い**市 三 会**

世話人 一期B 末 正明

一期B 栗原正昭

4期E 榎本幸三

勝山歯科医院

一期A 勝山 和夫

〒130 墨田区太平3-14-5

Tel(医院)623-6592(自)671-8100

銀座菊地病院・救急病院(内科・外科・整形外科・皮膚泌尿科)
(婦人科・眼科・人間ドック・検診)

院長・二期A 湖山 聖道

〒104 中央区銀座7-13-15

Tel(病院)541-1151

(自宅)465-6113

**出光ガソリンスタンド
自動車販売整備**

飯田橋 神保町

一期B 末 正明

〒112 文京区後楽2-6-1

Tel(会)261-5111(自)811-0755

ヨシヒデ金属KK代表取締役

非鉄金属材料の販売

一期A 郡司 良典

〒203 東久留米市小山1-17-3

Tel 0424-71-4415

医療法人 池袋大久保病院

(内科・胃腸科)

院長

二期B 大久保 宏

〒171 豊島区西池袋1-43-5

Tel(医院)987-3785-7

(自)981-1623

(株)栗原製作所

(各種ディスプレイ企画製造)

一期B 栗原 正昭

〒111 台東区元浅草4-5-5

Tel 841-2515(代)

婦人科渡辺クリニック

一期A 渡辺 邦緒

〒107 港区北青山3-5-22

青山通り富士銀行ソバ

Tel(医院)403-3777(自)719-1778

弁 護 士

二期D 原田 策司

〒104 中央区銀座7-5-4 毛利ビル4階

Tel 571-1780(代)

〒145 大田区土池台3-30-1(自宅)

八洲印刷K.K.

一期B 川上 光男

〒114 北区王子本町2-11-6

Tel(会)909-3211(自)815-2839

弁 護 士

一期A 渡辺 剛彰

〒113 文京区西片2-12-23

Tel(事)814-1984(自)811-7704

弁 護 士

二期E 早川 律三郎

〒150 渋谷区神宮前2-30-5

原宿キャサテル 209号

早川律三郎法律事務所

Tel 475-0330・0339

小林学習塾塾長

(小・中・高マンツーマン指導)

一期B 小林(石垣)一夫

〒174 板橋区東山町5-13

Tel 972-1227

渡辺歯科医院

一期A 渡辺 敏雄

〒160 新宿区新宿7-2-4

Tel(医院)203-3952

(自)351-7976

三期B 中川(舟生)薫

〒236 横浜市区金沢区六浦

4-8-6

社団法人 日本港運協合理事

Tel 573-1151

虎の門日比谷クリニック

(皮膚科・泌尿器科・形成外科)

健康扱い

一期C 山中 秀男

(自)〒152 目黒区目黒本町4-8-20

〒105 港区虎ノ門1-1-20

虎ノ門美業会館5階

Tel(医院)508-2508(自)714-9518

三崎町医院

成人病相談

一期B 福山 正臣

〒101 千代田区三崎町2-21-1

TEL(医院)261-7446

(自)904-4844

社会福祉法人 全国ペーチャット協会

群馬大学教授

三期C 木村 駿

〒176 練馬区小竹町2-45

Tel(自宅)955-2772

(勤務先)0272-32-1611

中村耳鼻咽喉科医院

一期C 中村 信成

〒281 千葉市幕張町6-288-3

Tel(医院)0472-73-7026

(自宅)0472-72-6625

高松診療所

一期B 野久保 泰徳

〒190 立川市高松町2-2-14

Tel 0425-27-3541

賛助金は一口老万円で。同窓会までお申込み下さい。

星野家具店

19期E 星野久男

〒173板橋区仲宿40-4
Tel 961-9567**御徒町食堂**

5期F 右高 研至

〒110 台東区上野5-20-5
Tel (食堂) 832-0451
(自宅) 919-1559**産婦人科**

三期E 小室 陽一

〒114 北区岸町1-12-22
Tel(医院)907-0303(自)907-0280**王子メガネ**

20期E 内原 康雄

〒114 北区堀船1-2-18
Tel (自宅) 914-9143
(会社)913-1549**会 計 士**

10期D 根本(鈴木) 司

〒332 川口市中青木3-1-16-639
Tel 自宅0482-51-0326
根本公認会計事務所
Tel 254-0380**静谷クリニック**

(内科)

四期B 静谷 晴夫

〒170 豊島区西果嶋4-6-2
Tel(医院)910-1136(自)910-1219**南浦和・セキハタ歯科医院**

21期I 関端 徹

〒336 浦和市南浦和2-7-17
Tel (医院) 0488-86-1818
(自) 0482-68-9176**下田特許事務所****弁 理 士**

17期E 大橋 邦彦

〒171 豊島区长崎2-29-17
Tel (自宅) 957-1533
(会社) 438-9181東京都北区議会議員
医療法人赤羽病院理事長
王子税理士会顧問**税理士**

四期E はいばら 富士雄

〒115 北区志茂1-17-13
TEL 901-8554**ビストロ・ポニータ**

(西洋料理店) 経営

23期E 中井 寿子

(店) 〒176 練馬区旭丘2-44
(江古田駅近)
Tel (店) 958-6300
(自宅) 267-5780**松栄(靴下・婦人下着小売)**

18期G 松井 好彦

〒111 台東区浅草橋1-21-1・松栄
Tel (会社) 866-9711
(自宅) 0473-36-2395**株サトウケミカル(入浴剤製造)**

4期C 佐藤 佳男

〒352 新座市東3-8-14
Tel (会社) 0484-81-2323
(自宅) 0484-74-8456**斉藤商店(精肉・食品卸)**

29期 斉藤 智夫

〒112 文京区白山5-1-15
(会社) TEL 815-5771
(自宅) TEL 815-0029**弁 護 士**

18期H 宮本 智

〒100 千代田区有楽町1-6-8
松井ビル6階
旬報法律事務所
TEL(事務所)580-5311
(自宅)926-5354**静谷歯科医院 (歯科一般)**

4期D 静谷 栄夫

(午前) 〒170 豊島区駒込3-11-3
Tel 915-1108
(午後) 〒170 豊島区果嶋3-8-15
Tel 915-0072

市 三 会

4月14日、母校校長室で例会を開き
新旧校長先生を始め、恩師をお招きし
ました。例会も百数十回を重ね、有志
の同窓の会として、サロンの雰囲気
の運営をしております。入会等の連絡
は末(261-5522)会長まで。
利殖の話 (河野一郎氏2期A)

昭和60年度

予 算 案

〔収 入〕	8,020,440円
繰越金	3,103,440円
利子	850,000円
会報(9,000×423)	3,807,000円
その他賛助金	240,000円
名簿	20,000円
〔支 出〕	5,348,750円
経常費	3,348,000円
各部(名簿・会報各5,000円)	
事務手当(10,000×4)	50,000円
名簿(550部+バラ50冊分)	1,100,000円
会報(11,800部)	413,000円
送料(70×10,500)	735,000円
宛名書き	100,000円
発送費	100,000円
学校案内	150,000円
後援費(母校・卒業者)	150,000円
通信・交通費	100,000円
運営費	250,000円
慶弔費	50,000円
パソコン第2水準漢字	100,000円
予備費	50,000円
基本財産	1,100,000円
奨学基金	600,750円
会館基金	100,000円
50周年基金	200,000円
〔繰越金〕	2,671,690円
○支出追加・備品費(小金庫)	25,800円

都立文京高等学校同窓会会報
 紫 箱 第28号
 昭和60年11月1日刊
 編集 佐藤 高史
 田上 恵一 近藤 隆
 山田 泰史 堀井 千絵
 尾栗 秀樹 加藤 良子
 酒井 奈保美 水谷 裕行
 満尾 典子 西岡 弘
 住所 豊島区西巢鴨1-1-5
 (二七三) ☎九一〇一八二三一
 郵便振替番号東京0:62011
 印刷 シミズ印刷 ☎三三・二六三五

昭和59年度

都立文京高等学校同窓会会計報告

昭和59.5.27~60.5.31の間の会計は次の通りになります。

昭和60年5月31日 会長 渡辺 剛彰
 会計 太田 敏夫
 監査の上、正確であることを認証します。
 昭和60年6月10日 会計監査 鎌田 次彦
 " 若尾 迪治

1. 財産目録(60.5.31)	
イ. 基本財産	14,610,000円
ロ. 現金	3,103,440円
ハ. 物 品	
①両開き書庫4 ②書類入れ1	
③金庫1 ④手提金庫1 ⑤机2	
⑥いす1 ⑦ファイル1 ⑧ストープ1	
⑨カメラ3 ⑩三脚1	
ニ. 郵便口座	0円
ホ. 奨学基金	1,549,802円
ヘ. 会館建設基金	1,572,096円
ト. 50周年基金	800,000円
2. 現 金	
イ. 収 入	8,067,949円
繰越し	2,381,728円
会費(59年度卒8,500×395)	3,357,500円
賛助金	80,000円
奨学基金	30,000円
利息	801,743円
名簿	12,000円
郵便振替	1,292,500円
寄付	71,728円
その他	40,750円
ロ. 支 出	4,964,509円
経常費	3,564,509円
各部・事務手当	40,000円
名簿(740冊+バラ291組)	1,355,000円
会報(11,500部)	356,500円
送料(70×10,367)	725,690円
宛名書き・発送	200,000円
学校案内	150,000円
後援費	134,300円
通信交通費	193,530円
運営費	247,359円
名簿アンケート・払込通知書	94,500円
慶弔費(井出先生)	10,200円
カメラ	34,800円
その他	22,630円
基本財産	1,000,000円
奨学基金	100,000円
会館基金	100,000円
50周年基金	200,000円
ハ. 繰越金	3,103,440円